

CLUB WEEKLY No.0046

よいことのために手を取りあおう

国際ロータリー会長 フランチェスコ・アレツォ

水と衛生月間

例会日:2026年3月23日(令和8年3月23日)

会長 平松悦子



今日の例会

2026年3月23日

12:30~

- 第46回例会 オンライン
- 進行担当 遠藤会員
- 今日の歌 四つのテスト
- 出席報告 竹谷会員

次回の例会

2026年4月6日

12:30~

- 進行担当 竹谷会員
- 今日の歌 君が代・それどこそローター
- 出席・ニコニコ 安田会員
- 卓話 地区R財団委員長 新堂 博様
- 第10回理事会 13:40~14:20

会長の時間

皆様、本日はありがとうございました。

【平松 悦子会長】

早いもので、あと3か月、正確には2か月半ほどで、私の会長としての役目も終わり、次の年度へ引き継ぐこととなります。

本日は、関西大学からの留学生をご紹介します。パキスタンからの留学生で、マスード・アフアフさんです。今回、当クラブで受け入れをさせていただくことになりました。そのお世話役として、溝畑創立会長にカウンセラーをお願いしております。それでは、畑創立会長にカウンセラーとしての委嘱状をお渡ししたいと思います。



幹事報告

【久保 太公矢幹事】

- ① 3月28日(土)に帝国ホテル大阪で開催されます八尾ロータリークラブ65周年記念式典には、溝畑直前会長、平松会長、そして私の3名で参加して参ります。
- ② 4月4日には2026-27年度のためのクラブ・リーダーシップ・ラーニングセミナーが大阪国際会議場にて開催されます。13時より第1部本会議開会、15時30分より第2部部門別協議会が開催されます。ご出席予定の各委員長の皆様、どうぞよろしくお願ひいたします。
- ③ 次回、4月6日の例会には、地区ロータリー財団委員長の新堂博様が卓話にお越しくださいます。また、東大阪東ロータリークラブより3名、八尾ロータリークラブからも数名の方がメイクアップに来られます。
- ④ 例会終了後は第10回理事会がございますので、理事役員の皆様にはよろしくお願ひいたします。報告事項、審議事項がございましたら、4月1日(水)までにメールにてご連絡頂きますようお願い申し上げます。

大阪上方ロータリークラブ

創立:2024年7月22日 例会:第1・3週目は対面・第4週目はオンライン

会長:平松 悦子
 幹事:久保 太公矢
 会報資料担当:青戸 佳世

【例会場】〒543-0001 大阪市天王寺区上本町 6-1-55 シェラトン都ホテル大阪
 TEL:06-6773-1111 FAX:06-6773-3322
 【事務局】〒579-8058 東大阪神田町 3-12 医療法人翔聖会 気付
 TEL:080-2026-1803 Mail:osaka.kamigata.r.c@kind.ocn.ne.jp

【クラブ奉仕委員長 濱部 英和】

本年度は、クラブ運営の円滑な支援と組織内の調整、そして「次期リーダーへの確実なバトンタッチ」を主眼に活動いたしました。会員増強や退会防止といった数値目標へのアプローチだけでなく、会員一人ひとりのエンゲージメントを高める「雰囲気づくり」を重視いたしております。

次期への引継ぎ

次期役員との合同会議を主導し、運営ノウハウや懸案事項を確実に共有し、会長へは届きにくい現場の声を拾い上げる役割をいたしております。

奉仕活動の推進

八尾市の子ども食堂のニーズを汲み取った奉仕プロジェクトの支援
大阪府赤十字病院附属大手前整枝学園への歯科検診奉仕活動の継続活動

クラブ運営

理事会および各委員会との定例連絡会の実施をし、各委員会の活動が重複することなく、計画通りに遂行された。

【会員増強・職業分類委員長 朝倉千勝】 小林 友美子

本年度は「増やすこと」と「減らさないこと（退会防止）」を両輪で進めました。

特に俳句の会やグルメ会といった例会外での交流が、会員間の「顔が見える関係」を強固にし、数字以上の組織的な活力を生み出したと確信しております。

会員増強・退会防止

同好会活動（俳句の会、グルメ会）の新設。世代や職種を超えた交流が高まり、退会防止に大きく寄与。

職業分類

これまでクラブにいなかった、事務局、Web制作の方が入ったことで広報のアドバイスをもらえるようになった。

【出席・プログラム委員長 道木 憲子】 遠藤 孝二 青戸 佳世

3月時点で会員数24名 「皆出席者」（敬称略）

溝畑正信・間嶋伸治・遠藤孝二・青戸佳世・竹谷美和・道木良明・道木憲子・中島勇人の方々です。

平均出席率は56.3% 修正出席率は64% です。

【親睦委員長 中島 勇人】 遠藤孝二

クリスマス家族会 日時：2025年12月7日(日)18時～21時

会場：月のね 心齋橋本店

会費：会員18000円 家族 12000円 参加人数：会員 12名 家族 2名

収支報告：収入：（会費収入）18000×12+12000×2 = 240000円

（クラブから） 200000円

合計 440000円

支出：（月のねへの支払い） 440000円

定期的な同好会活動

・月1回 句会(第3木曜日17時30分～)

・約2か月に1回 グルメ会

年次目標

・クリスマス家族会は12月7日に実施(会員12名、家族2名参加)

・納涼会はグルメ会に変更

【会計・広報委員長 青戸 佳世】 遠藤 孝二 竹谷 美和

会計報告

会計担当としてクラブの収支状況を管理し、収支確認後は速やかに記録を行い、正確な会計処理に努めました。日々の収支管理を丁寧に行い、ミスのない会計運営を意識して活動しました。今後も引き続き、円滑で信頼性の高い会計管理に努めてまいります。

広報委員会報告

奉仕活動や親睦会の様子について、InstagramやFacebookを活用し、できるだけタイムリーに発信する取り組みを行いました。また、今年2月にはクラブのホームページを新たに開設し、例会の雰囲気や活動の様子など、大阪上方ロータリークラブの魅力を広く発信する体制を整えました。

閲覧数の向上を図るとともに、クラブの認知度向上と会員増強につながるよう活動しました。

創立2年目の新しいクラブである強みを活かし、今後も柔軟に新しい取り組みに挑戦していきたいと考えています。

今後も情報発信を通じてクラブの魅力を広く伝え、会員増強につながるよう努めてまいります。

【職業奉仕・職業奉仕委員長 竹谷 美和 小林 友美子】 遠藤 孝二 青戸 佳世

大阪上方ロータリークラブでは、社会奉仕委員会および職業奉仕委員会の合同事業として、本年度、地区補助金を活用した子ども食堂へのお米の支援を実施し、子どもたちの未来を支える継続的な奉仕活動に取り組みました。

事前調査の結果、11か所の子ども食堂の利用者数が延べ1,905名にもものぼることが分かり、お米支援の必要性を実感いたしました。地区補助金を活用したことにより総量650kgのお米を支援することが出来ました。

また、お米の支援だけでなく、会員が実際に現場へ赴き、配膳や給仕などのボランティア活動に参加しました。各子ども食堂では、温かい食事の提供だけでなく、自習支援や居場所づくりなど、地域の子どもたちに寄り添った取り組みが行われています。

現場に足を運ぶことで、支援の意義を改めて実感するとともに、「顔の見える奉仕」の大切さを共有する貴重な機会となりました。改めて物資支援にとどまらず、継続的な関わりを通して地域全体で、子どもたちを支える体制づくりに貢献していく大切さを実感いたしました。

【会長エレクト・クラブ戦略委員長 間嶋 伸治】 濱部 英和

会長エレクト

本年度は会長がご多忙でしたので、会長の時間をはじめ、次年度会長としてのウォーミングアップをさせていただきました。皆様本当にご協力ありがとうございました。深く感謝を申し上げます。

クラブの奉仕活動としては、子供食堂へのサポート、大手前整肢学園への歯科検診を実施いたしました。また、先日溝畑直前会長がパキスタンへ遠征してのポリオワクチン投与、現地での浄水設備を設置し、ポリオ根絶への目標へ向かって前進していることを、全会員が実感できていることと思います。今まで以上により活動内容を濃いものとし、実り多き奉仕活動を一致団結して取り組んで参りましょう。私自身、大阪上方ロータリークラブの活動を通して「自分は『本当はどうありたいか！』を問う毎日であります。喜ばれる存在としてあり続けたいと思っております。どうか皆様、一丸となって、ますますよき風を上方から吹かせましょう！どうぞ宜しくお願い申し上げます。

クラブ戦略委員長

今年度は、Web会員の受付をスタートし、例会をLIVEで配信する準備が整い、ロータリー活動には参加したいけれど物理的に無理であった方々にも入会していただけるよう対応しました。これにより会員となった方々の基盤を広げ積極的なかわりを促すことを期待しております。又、他クラブとの合同例会を実施しようという計画も現在検討中です。大阪上方ロータリークラブのブランド力向上に、より一層みがきをかけ、年度を超えた効果的な奉仕活動を続けることで会員増強へ引き続き繋げて参ります。ご協力宜しくお願い申し上げます。

【会場監修 (SAA) 遠藤 孝二】 安田 剛 竹谷 美和

クラブの例会開始、終了時刻を正確に行うとともに、秩序正しく品位のある例会になるよう努めました。

クラブへのお客様に対し、アットホームな雰囲気づくりをして、気持ち良く過ごしていただけるよう努めました。

ホテルスタッフや他の関係者にも不快な思いを持たれないよう配慮いたしました。

クラブ例会においては、美味しい食事と会話によって「友情の輪」を作り出せるようになりました。

ガバナー月信の精読を促し、一部記事を紹介するなどいたしました。

My ROTARY全員登録を目指し、啓蒙活動を続けたいと考えております。

ちょっとご報告なんですが、先ほどクラブ協議会でもお話しさせていただいたのですが、今週18日の水曜日の夜に、先日メークアップに来られた愛知の友愛ロータリークラブの、一宮ってところにあるんですけども、その会長並びに会長エレクト、それが幹事ですから、会長ノミニーさんが、うちがハイブリッド式のZOOMでの例会を考えてるということで、その情報交換をしたいということで、意見も色々出てくるかと思えます。会員の中にはですね、日本軽金属学会の会長という方もいらっしゃると思います。私も歯科医でございますので、そのメタル関係、これチタンとかアドミニウムとかマグネシウムをあの扱ってられる学会なんですけども、お話を聞きたいという風にも思っております、明後日水曜日、名古屋まで行ってお話をしようという風に思っております。ご報告でした。



ガバナー補佐 スピーチ

先ほど懇談会、そして協議会を無事終え、今こうして例会に入っております。今日は、私がロータリーに入会したきっかけ、そしてロータリーに入って得たものについてお話しさせていただきます。

私は38歳の時に八尾ロータリークラブに入会しました。今年61歳になりますので、気がつけば23年が経ちました。本当にあつという間だったと感じています。入会のきっかけは、私が長年取り組んできた更生保護活動です。犯罪に手を染めた方々の立ち直りを支援する活動を、30年以上続けてきました。犯罪者の約7割が無職だと言われています。ですから、まず仕事を与えること、そして住む場所、さらに相談できる環境、この三つを整えることが更生のスタートになります。その活動の中で、保護司会や協力雇用主会の方々と関わるようになりました。現在大阪では、お好み焼きの千房の中井会長が有名です。協力雇用主は約2500社にまで広がっています。大手のゼネコンなども参加し刑務所や少年院を出た人たちを仕事を通して更生へ導く体制ができています。

そのような活動をしている中で、保護司会の会長からロータリークラブへの推薦をいただき、入会することになりました。当時の私は、ロータリークラブのことも、奉仕活動の世界もほとんど知りませんでした。推薦をいただき入会の話が進んだのですが、実は一人だけ反対された方がいました。理由を調べると、私の従妹「あんやんちゃんやつを入れて大丈夫なのか」という声だったようです。実は私自身も若い頃はやんちゃな時期がありましたので、そう思われても仕方がない部分もありました。しかし、周りの方々の説得もあり、無事に入会させていただくことになりました。

私は23歳で会社を起業し、最初は運送会社を立ち上げました。その後、林業、ビルメンテナンス、清掃業、アパレルなど、現在では15の事業を展開しています。

その中でも、更生支援は私の大切な社会貢献活動です。年間20人ほどの、刑務所や少年院を出た方を受け入れ、仕事を通して更生を支援しています。一般的に再犯率は約50%、つまり2人に1人が再び罪を犯してしまうと言われています。特に薬物犯罪などでは再犯率が80%に達することもあります。

しかし、私の会社で受け入れた人たちの更生率は約9割です。10人中9人が立ち直り、長い人では9年、10年と働き続けています。これは30年以上の活動の中で、会社内外に更生支援の体制ができてきたからだと思えます。一人ひとりに寄り添い、その人に合った支援を行っています。

特に気づいたのは、つまずくのは休日が多いということです。平日は仕事を頑張れるのですが、休日になると孤独になり、再び悪い方向へ行ってしまふことがあります。そこで休日にも一緒に過ごす仕組みを作りました。人は孤独になると弱くなります。ですから寄り添うことがとても大切だと感じています。「誰一人取り残さない」という言葉がありますが、まさにその気持ちで取り組んでいます。その結果、9割という高い更生率につながっています。

ある仏教の先生から、こんな言葉を教えていただきました。「この世の中は、被害者、加害者、そして救済者で成り立っている。救済者がいることで、加害者は救われ、やがて救済者にもなっていく。」更生支援をすることは、結果として被害者を生まない社会を作ることにもつながるのだと気づかされました。こうした経験の中で、ロータリーの奉仕の精神も自然と学ばせていただきました。

【ガバナー補佐 田中 康正様】



私はロータリーに入会してから、3年間一度も休まず例会に出席しました。しかし最初の3年間は、ほとんど誰にも声をかけてもらえませんでした。「八尾に田中という人が入ってきたらしい」という程度で、皆さん少し距離を置いていたのかもしれませんが。それでも続けているうちに、少しずつ声をかけていただけるようになり、多くのことを学ばせていただきました。

ロータリーには委員会制度があり、様々な活動があります。その仕組みは、会社経営にも大いに役立っています。私たちの活動は、委員会での経験をきっかけに、会社の中でも活かされるようになりました。やがて、子ども食堂や不登校の子どもたちの支援、そしてBBS活動などへと広がっていきました。もともと会社で取り組んでいたボクシングクラブを独立させ、約15年前から「居場所づくり」に取り組んできました。現在では、子ども食堂、ボクシング、そして不登校支援の3つの居場所が整い、良い循環が生まれています。子どもたちは子ども食堂に来て、ボクシングでストレスを発散し、仲間をつくれます。また、不登校だった子がこの場所に通うことで、再び学校に行けるようになるなど、前向きな変化も見られるようになりました。こうした取り組みが形になった背景には、これまで関わってきたロータリークラブでの経験や、奉仕の精神があります。特に海外研修、奉仕での経験は大きく、フィリピン・セブ島で子どもたちと接した際、その笑顔の背景には強いコミュニティの力があることを実感しました。近所の人たちが自然に支え合い寄り添いながら子どもを育てる環境があり、それが子どもたちの明るさにつながっていました。一方、日本ではそのようなコミュニティの力が弱まってきていると感じています。だからこそ、地域の中で子どもたちを支える「居場所」をつくるのが重要だと考え、活動を続けてきました。

現在、BBS活動は週2回（火曜日・木曜日）、約200坪の倉庫に公式リングやサンドバッグなどの設備を整え、ボランティアで運営しています。毎回、大人から子どもまで約40名が集まり、世代を超えた交流の場となっています。特に印象的なのは、荒れていた中学3年生のグループ10名の変化です。最初は無理に指導せず、徐々に受け入れることを大切にしました。その中で、私自身も45歳から60歳まで、ボクシングにはまってしまい、おかげさまで試合にも出場し、ミドル級のチャンピオンベルトを獲得することもできましたので、簡単には負けない自信はあります。

半年ほど経った今では、スパーリングにも取り組み、態度も大きく変わりました。挨拶や片付けができるようになり、学校生活にも良い影響が出ています。活動の中では、「親に反抗しない」「先生に反抗しない」「暴力を振るわない」という3つの約束を大切にしています。こうした積み重ねにより、子どもたちが道を外れずに成長していく姿を見ることができています。また、若者たちの集まりをきっかけに、新たな八尾ローターアクトクラブも立ちあげ、現在では30名ほどが参加しています。このように、居場所があることで人が集まり、新しい取り組みが自然と生まれていくと感じています。ロータリークラブに入会したことで、多くの方々との出会いと学びの機会をいただき、今の活動が成り立っていますので、心から感謝しています。今後もこの取り組みを続け、さらに多くの人にとっての支えとなる場を作っていきたいと考えてます。



【ガバナー補佐エレクト 松尾 治様】

今年の7月から田中補佐に代わり、私が1年間、皆様とお付き合いをさせていただくことになりました。地区と各クラブの皆様が円滑に活動できるようお手伝いする役割をいただいております。基本的に、クラブの活動について地区が口を出すことはありません。ただし、クラブが困っている時や何か必要な時には、私たち地区の人間がお手伝いをさせていただくという立場です。どうぞ遠慮なく、どんどん使っていただければと思います。よろしくお願いいたします。

さて、私自身のことを少しお話しさせていただきます。田中さんは非常にしっかりとした方ですが、私はどちらかというと少し軽い人間かもしれません。私は大阪市内で生まれ、小学校は北浜、中学校は波中学、高校はすぐ近くの清水谷高校に通いました。お寺もこの辺りにあり、私自身もこの地域には大変ゆかりがあります。

私がロータリークラブに入るきっかけとなったのは、青年会議所（JC）でした。32歳の時に入会したのですが、その理由は、学生時代をヨーロッパで過ごしていたことにあります。日本に帰ってきた時、日本での人とのつながりがありませんでした。帰国後、向こうで結婚していたこともあり、家をどうするかという話になりました。ちょうど六甲山の中腹に土地があるということで、そこに家を建てることになりました。父が保証人になってくれたおかげで、26歳の時に家を建てることができました。しかし、周りには知り合いがほとんどおらず、まさに山の中の生活でした。これはいけない、やはり地域とのつながりを持たなければと思いました。会社は大阪市内にあり、工場は東大阪ですから、地域との関わりがほとんどなかったのです。そんな時、西宮の青年会議所の方が取引先におられ、「若いんだから入ってみたらどうだ」と声をかけてくださいました。そこから社会奉仕活動に関わるようになりました。

青年会議所は40歳までの団体で、「40歳までは何をしても構わない」というくらい自由で活発な組織です。思い切った活動もたくさんさせていただきました。思い出としては、コンサートをプロデュースし、その収益を芦屋市に寄付したことがあります。当時はまだ今ほど「ボランティア」という言葉も一般的ではありませんでしたが、これからボランティア活動をする方々のための資金として使っていただきたいということで、市に寄付させていただきました。仲間と一緒に取り組みれば、こんなこともできるのだと実感した経験でした。

その後、40歳で青年会議所を卒業しました。ちょうどその頃、東大阪の工場の近くのお医者様から「JCを卒業するなら、東大阪西ロータリークラブが5周年だから入会しないか」と声をかけていただきました。

ロータリークラブがどんな活動をするのかもよく分からないまま、入会させていただきました。入ってみて感じたのは、東大阪西ロータリークラブはとても温かいクラブだということです。新人の私をいろいろなところへ連れて行ってくださいました。商工会議所や日本政策金融公庫など、さまざまな活動の場へと引っ張り上げていただき、活動の幅が大きく広がりました。正直、こんなに面倒を見てもらえるのかと驚きました。ロータリーは本当にありがたい場所だと感じました。

その後、地区の活動にも関わるようになり、最初はローターアクトに関わらせていただきました。若い人たちと一緒に活動するのは非常に楽しく、元気をもらえる時間でした。さらに青少年交換委員会にも関わることになりました。青少年交換は非常に専門的な活動で、学生、ホストファミリー、海外の受け入れ先など多くの人と連携しながら進めていきます。学生が10か月間安全に過ごせるよう支える、大変責任のある活動です。

私はフランス担当でしたが、フランス語は話せません。それでも翻訳を使いながらやり取りを続け、気が付けば5年間関わっていました。中途半端に関わるのではなく、しっかり関われば道は広がり、さまざまなノウハウも身に付くことを実感しました。

少し会社の話もさせていただきます。私の家業は染色業で、祖父と父が営んできました。ハンカチや衣服の柄を染める仕事です。祖父は木版を彫り、布に模様を押ししていくという伝統的な方法で仕事をしていました。これはインドやヨーロッパにもある技法で、イギリスのデザイナーであるウィリアム・モリスなども同じような技法を用いていました。

父の代で機械化が進みましたが、祖父も父も海外志向が強く、かつて中国にも工場を作り、日本に製品を輸入していました。しかし戦争でそれらはすべて失われ、日本で一からやり直すことになりました。

現在は外国人労働者はいませんが、研修生や学生の受け入れは行っています。インドや台湾、最近ではオランダの学生を受け入れました。若い学生たちと関わることで、社員たちも教えながら学び、良い刺激を受けています。社員も楽しみながら仕事ができる会社になっていると思います。

ただ、染色業界は厳しい状況です。仕事は中国やバングラデシュなど、人件費の安い国へ移っています。特に私たちのような「川中産業」は、日本では弱体化しているのが現状です。それでも何とかスリムな体制を作りながら、元気に活動を続けています。

この2年間、ガバナー補佐として皆様とご一緒できることを大変うれしく思っております。来年はまたクラブで活動させていただきますし、会場も月曜日で隣同士ですので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

